

陽気だより

養徳社 検索

No.9 2007.12.15

第二号から

『陽気』は、昭和24年5月の創刊、平成21年に60年を迎えます。その足跡の一端を、昔の記事から振り返っていきます。



『第2号の表紙絵』 キャッチフレーズが登場
「みんなて陽気に笑って暮らそう」
ちなみに特集テーマは「ニコニコ」です

人生いかに生きべきか

亀井勝一郎

この問題は、あらゆる時代、あらゆる機会にくりかえされるのですが、未だかつて万人を納得させるような絶対普遍性をもった答えは出てきませぬ。つまりそれほど人生は矛盾にみちており、人生を生きることとは不安と冒険を意味するといわねばなりません。仮に神さまが現われて、悩める我々に向って、おまえはかくかくの人間である、おまえはこの道を行けば絶対まちがいないと指示してくれたら、

どういうことになるか。その一生がたとい安楽にみちたものであっても、我々は何となく不満を感じるのではないのでしょうか。何故なら、自分の一生のプログラムが確定してしまつたら、人生を生きる興味も努力もなくなるからです。信仰にとつて、疑いは禁物にちがいませんが、疑いのあるところに人間性があり、その矛盾不安の人間性あるところに、却つて信仰の永遠性もあると私は考えています。信仰は私をより一層不安にするのです。不安に対して、之を臆せず凝視する明らかかな眼を与えるものこそ神でなけ

ればならぬ、という風に思っている次第です。そこで、私は平生、自分の人生に処す上で念頭から離れぬ様々の人生観を、箴言風にここに列挙して感想を述べてみようと思ひました。夫々に矛盾もし、また東西の差もあります。この紛糾の裡に、私はむしろ人間の真相をうかがいたいのです。いかに生きべきかについて、大切なのは人間の研究であります。自己を実験台に供してもよい。その力さえあれば、様々の面白い結果が得られるでしょうし、之に普遍性を与えたものが、古来のすぐれた人生観だと思ふのです。

(後略)

亀井勝一郎(かめい かついちろう)
評論家
『大和古寺風物誌』(昭和18年刊・養徳社)は太平洋戦争中の代表作。

陽気な笑顔写真募集

青春の日は二度とかえりません。貴女の此の貴い欲びの日の記念に、進んでこの機会を御利用下さい。

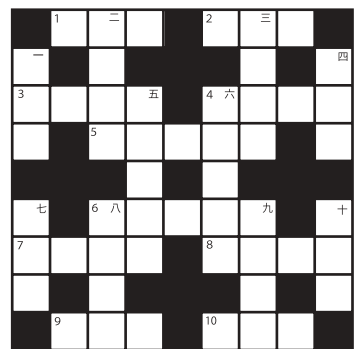
本誌の表紙は、今回大阪府美術館の第一席に入賞された新界の権威者島崎伯(本名下高限千歳)が寫眞をもとにして綿地に細密鮮麗な繪を描いたものです。毎月一人づつ寫眞を選んで載せて、表紙のモデルにし、その寫を記念に差し上げます。

規定 年齢十七才以上廿五才迄。寫眞の大きさは手紙型。裏面に住所氏名年齢及び所属機関明記のこと。

送付先 大阪府美術館 第一席に入賞した島崎伯(本名下高限千歳)の寫眞をもとにして綿地に細密鮮麗な繪を描いたものです。毎月一人づつ寫眞を選んで載せて、表紙のモデルにし、その寫を記念に差し上げます。

『笑顔の写真を募集』 写真をもとに下高原千歳氏(大阪府美術館の第一席に入賞した画家)が絵を描き、表紙絵にするというもの

- 横書きの鍵
- 1 神前にお供えする植物
 - 2 家を建てること
 - 3 近鉄天理駅に一番近い乗換駅
 - 4 本誌のたのしい特集頁(ヒントは上の写真)
 - 5 おやがみさま
 - 6 信者がいつも集る場所
 - 7 身辺の悩みや不時災難をおつくしすること
 - 8 真柱様の著書「かみ〇〇及びをや」
 - 9 神様のお道具
 - 10 縦書きの鍵
- お産のこと
お産の時、二番目にする動作
信心すること
心をくもらすもの
四月十八日
初めて御教理をとりつぐこと
人間のおやざと
七人の規則
通つてはたさねばならぬもの
今あなたの読んでおられる雑誌
※濁点を取らなければ合いません。答えは裏がな表記が連うところがあります。



お道クロスワード(第二号より)

大きな櫟の木 (「てんりの昔ばなし」に記載を要約)

昔、天理のある村に、巨大な櫟の木が天にもとどかんばかりにそびえていた。枝は四方に広がり、村全体をすっぽりと包み、太陽の恵みは受けられない。せつせと田畑を耕しても、米や作物はほとんど育たなかった。その上、この木の上に住む天狗がいたずらをして村人を苦しめ、果ては



「てんりの昔ばなし」より

米谷山から見下ろせば、大和の国中すっかり見えるんだ。どうだい、このめがね、欲しくないかい？」
天狗が、どのくらいいるのか？ と聞くと、覚弘坊は、「これは大変高価なものだが、お前の住んでいる櫟の木と交換してくれるのなら、ただであげよう」

毎年一人ずつ娘を差し出せと言ってきた。
その頃、修業を積んで中国から帰った覚弘坊という坊さんが、何とかして天狗を退治してやろうと一策を講じた。
「もしも天狗さん、中国からよいお土産を持って帰ったよ」と櫟の木の下から呼びかけると、誘いに乗って大木の上から顔を出した天狗に、衣の中からおめがね(望遠鏡)を取り出して見せた。
「……これを使ってあの東の

天狗は喜んで櫟の木から下り、めがねを手に飛ぶように行ってしまった。坊さんは、大きな櫟の木を念力とのこぎりで切り倒した。
あたりは急に明るくなり、今まで目にしなかった太陽が村の上に顔を出した。村人たちは大喜び。それからは、日の恵みを受けて、村人たちの生活も豊かに栄えていった、という。
その木の横倒しになった西の方の村を「横田」といい、枝

のかかった村が「櫟枝」という地名になった。また、もとの櫟の木があった村を「櫟本」といって、現在の地名が残っている、ということである。

地図を開くと、櫟本と横田は2キロ以上、櫟本と櫟枝は1キロ以上はあるようです。ちなみにエベレスト山は、8444メートルあまりです。

◎横田村……現在の奈良県大和郡山市横田町。国道24号線と25号線の交差点に当たる。『稿本天理教教祖伝』(48頁)には、元治元年(1864・教祖67歳)には、芝・大豆越・横田・小路・大西・新泉・龍田・安堵・並松・櫟本・古市・七条・豊田の各村、ほかかなり遠方からも多くの人が寄り集まった、とある。

◎櫟枝村……現在の奈良県大和郡山市櫟枝町。文久元年(1861・教祖64歳)、この村の西田伊三郎(35歳)が信仰し始めている。

◎櫟本村……現在の天理市櫟本町。童田道(業平街道)と上ツ道(上街道)の交差点に立地。教祖の三女おはるが嘉永5年(1852・教祖55歳)この村の梶本惣治郎へ嫁入り。三男の眞之亮が初代真柱となる。本席飯降伊蔵は入信当時この村に住んでいた。(『稿本天理教教祖伝』32・50・234頁) (敬称略)

好評発売中!! 植田與志夫氏 待望の著書



『さあ、これからやー信心は意気と熱』が、11月26日に発刊。『陽気』連載他数々の話が収められています。何度読んでも胸打ち、血が湧く話。表紙カバー絵は、西蘭和泉氏(天理中学校美術教諭)が描いてくださいました。カバー裏の絵は、西蘭氏が植田氏の高尚佳分教会を訪ね、教会近くから、眼下に広がる大和の風景を描かれたものです。奇しくも養徳社発行千冊目の本。自信を持ってお薦めする、一人でも多くの人に読んでいただきたい本です。

四六判上製・二七二頁
定価 一、三六五円(税込)
講演会CDも好評発売中!
※ご購入は、おちばの各書店でお求めくださるか、直接当社へご注文ください。
(☎0743・62・4503)

お道クロスワード答え



養徳社 よもやま話

○……新刊「さあ、これからや」のポスター届きましたでしようか? 今回国内全教会に配布しました。届いてなければお知らせ下さい。購読もお願いします。読めば元気が湧いてきますヨ!

広告を載せませんか

ようぼくの企業や会社の広告を『陽気』誌へ載せてみませんか? 掲載料金は、広告の大きさによって異なります。料金は、記事中で一回二万円から。

詳しくは養徳社広告係まで
☎0743・62・4503

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。
養徳社